

## 第25回軽金属学会功労賞

軽金属学会功労賞は、永年にわたり軽金属学の発展ならびに当会の活動に顕著な貢献をした者に贈る。



高橋 知司 君

(独立行政法人  
国立高等専門学校機構  
新居浜工業高等専門学校  
名誉教授)

高橋 知司 君は、1976年に新居浜高専に着任し、新規アルミニウム焼結含油軸受開発に関する研究を行ってきた。1982年には、Cu基三元系合金の相互拡散に関する研究に着手し、1990年7月にフンボルト研究奨励員としてベルリン工科大学冶金学研究所に留学した。1991年11月、帰国後からは高圧力下でのAl基三元系合金の相互拡散の研究に着手し、1995年には「高圧力下におけるAl-Cu-Mg合金の相互拡散」に対して日本金属学会論文賞を受賞し、高く評価されている。また、2003年からTi-Al-X (X=Cr, Co, V, Fe, Zr) 系合金の相互拡散研究を精力的に行い、2005年と2012年に同学会中国四国支部論文賞を受賞している。2008年以降、Ti-Al-Zr系合金などの高温酸化に関する研究も行い、同学会中国四国支部 研究開発奨励賞を複数回受賞している。

本学会では、1987年～2001年まで軽金属学会四国センター副センター長、軽金属学会中国四国支部副支部長として活躍し、学会活動に大きく貢献した。以上のことが認められ、2001年輕金属学会中国四国支部特別功労賞を受賞しており、2011年11月には、軽金属学会60周年記念功労賞も受賞している。なお、同君は、本学会の発展に多大な貢献をしたとして2021年4月軽金属学会永年会員となっている。

以上のように、同君は、40年以上にわたり本学会の運営および活動に参加し、学術の発展に尽くしたものであり、その功績は極めて顕著であり、ここに軽金属学会功労賞を授与する。



高橋 英徳 君  
(地方独立行政法人  
北海道立総合研究機構  
産業技術環境研究本部  
ものづくり支援センター  
センター長)

高橋 英徳 君は、1989年に日本軽金属株式会社に入社して以来、アルミニウム材料の開発に従事した。その後、1992年に北海道立工業試験場（現在の地方独立行政法人北海道立総合研究機構）に転じ、腐食防食関連などさまざまな研究開発に従事した。2005年の北海道職員表彰（知事表彰）をはじめ2018年の『使用済み乾電池由来酸化物粉末を用いたアルミニウム合金リサイクル用濃度調整剤およびこれを用いたアルミニウムリサイクル方法の開発』など計5件の知事・理事表彰を受賞し、2008年には北海道開発局研究奨励賞を受賞するなど、北海道におけるアルミニウムの研究活動に大きく寄与してきた。

本学会では入会以来長年にわたって積極的に活動しており、2010年度から2017年度まで北海道支部長を担い、その間、2013年度から2016年度には支部長会委員長、総合計画委員会委員を、2020年には第140回春期大会の実行委員長を担うなど、学会に多大な貢献を果たしている。特に、維持会員増強を目的とした総合計画委員会・中堅企業支援WGでは公設試のネットワークを利用し、各支部の公設試に働きかけ、2014年度の維持会員技術相談室開設時には、相談窓口の選定に尽力した。現在は北海道支部監事として、北海道支部活動を支えている。北海道支部の活動を支えるにあたり、北海道工業試験場職員として果たしてきた役割は大きく、道内企業と道内大学・高専研究者、さらには道内機関との橋渡しを務め、数多くの講演会を開催し、また数多くの共同研究や産学官連携につながる活動を進めてきた。

以上のように、同君の本学会に関する功労は極めて顕著であり、ここに軽金属学会功労賞を授与する。



戸次 洋一郎 君  
(元株式会社UACJ  
R&Dセンター  
第一研究部  
首席主幹)

戸次 洋一郎 君は、1980年に古河電気工業株式会社に入社後、会社の統合により、古河スカイ株式会社、株式会社UACJと所属先は代わったが、一貫してアルミニウム材料の研究開発に従事してきた。その間、建材、PS版、箔地、缶材、クロージャー材、自動車ボディ材、自動車熱交換器材、船舶材、航空機材などさまざまな製品開発に携わった。その成果を軽金属学会講演大会で多数の発表を行った。また共著者として軽金属学会誌に5件の論文を投稿している。さらに、講演大会では座長やポスター審査員なども務め、特に2017年の第132回春期大会では実行委員として運営に貢献している。理事、評議員、研究委員、編集幹事、各賞推薦委員などの役職につき、研究委員会では2019～2021年に研究委員長を務めた。その間、日本アルミニウム協会と連携したロードマップの作成、新研究部会の立ち上げなどに尽力した。また、研究部会では1995～2000年のプレコート材成形部会で幹事を務めている。

支部においては、2020～2021年に東海支部長として展示会、講演会などを通じて、東海地区における軽金属学会のプレゼンス強化に努めた。教育活動では2018年から現在に至るまで軽金属セミナー応用編の講師を務め、実製品に関する聴講者からのニーズに応えている。

以上のように同君は40年にわたって軽金属学会活動を支えており、その功労は顕著であり、ここに軽金属学会功労賞を授与する。